新 おおさかKEYわーど【第22回】

歴史と街のタイムトラベラー そこを抜けると、ここに出ますか

大阪人ならば、幕末の大坂を描いた絵画ですぐに浮かぶのが「浪花百景」だろう。歌川国貞（くにかず）、南粋亭芳雪（なんすいていよしゆき）、里の家芳瀧（さとやよしたき）ら三人の歌川派が競作した百枚組の錦絵で、手前味噌だが、2020年に私の監修で『原寸復刻「浪花百景」集成』（創元社）も刊行した。

この復刻画集を見て、あらためて「浪花百景」に興味を抱いた人たちがあらわれた。「NPO法人もうひとつの旅クラブ」（以下「旅クラブ」）である。見逃されがちな地域の魅力、今に息づく歴史文化の香りを探ることを“もうひとつの旅”と呼び、実際に現地を訪れるだけではなく、新しいやり方で街の魅力にふれてもらおうという団体である。20年前に設立され、活動経験も豊富だ。

「浪花百景」を一枚ずつ拡大して大きなバナー（旗）に印刷し、広い会場に吊り下げて迷路にしたらどうだろうかという問い合わせが、この団体からきた。バナーの間を自由に歩き回ることで、幕末の大坂の街を散策している気分になるのではないか、というのである。

「浪花百景」の実寸は、縦横が約25㎝×18㎝ほどで小さい。確かに大きなバナーに引き延ばしたら迫力があるだろう。

それに幕末の浮世絵が、大阪人の“大阪愛”によって現代によみがえり、生かされるのである。なにやら、「おもしろそうな企画やおまへんか」と、私も企画に賛同した。

しかし、このアイデアが実現可能かどうか、まずは実験せねばなるまい。大阪市立北区民センター（Osaka Metro「扇町」、JR「天満」）のホールに「旅クラブ」のメンバーが集まり、予行演習をおこなった。その時の写真が表紙である。

予算の都合上、バナーにしたのは北区ゆかりの名所約二十景で、「旅クラブ」のメンバーが各自ひとつの景色を担当して解説を書き、時代考証だけではなく、その土地への自分なりの思いや、絵から新しく発見したことを話すミュージアムトークなどもやってみた。

面白かったのは、ホールに20点をどのように配置するかである。アイデアはいくつもあり、各景を実際の地図にある位置関係に置くやり方があるし、「水都」らしく川筋に沿って景観をつなぐようにならべ、一本の川を船で往来しているように錯覚させる配置もできる。メンバーから次々出たアイデアを、その場で並べかえることも容易で楽しい。

これこれ、桜を折って持ち帰ってはいけませんよ。「北妙けん堤（浪花百景）」部分（大阪市立中央図書館蔵）

予行演習の結果、この3月12日、13日、大阪市立北区民センターにおいて、北区民センター・大淀コミュニティセンター主催「江戸後期のおおさか「浪花百景」を楽しむマナビバイベント」が開催される（参加無料、開催時間10時～16時）。

本紙発行日と近く、急なイベント案内となってしまうが、企画は継続して開催し、回ごとに景観のバナーを増やして、最終的に「浪花百景」全景を揃える予定だというので、今回見逃された方は、ぜひとも次回の御案内をお楽しみにしてお待ちいただきたい。

もうひとつ私が感心したのが、大きな画面で「浪花百景」を見直すことの重要性である。小さな画面では気づきにくいが、例えば大きな図で「北妙（きたみょう）けん堤（つつみ）」を見ると、土手を行く人たちは全員が右から左へ歩いていることに気づく。場所は、現在の天神橋筋の3丁目と4丁目の間、埋め立てられた天満堀川に架かる「夫婦橋」あたりから西（扇町公園方向）を見た風景だろう。遠くの六甲山には日が沈み、人々が左の方へ進むのは、そちらが大坂の市街地であり、家に帰るためだと想像できる。

現在の夫婦橋跡付近から「北妙けん堤」に描かれた方向を望む

そして手前の土手を桜の枝を担いだ女性が歩いているが、地図の通りに「浪花百景」をホールに並べたら、「北妙けん堤」の上流に、「天満樋の口」「源八渡し口」「さくらの宮景」など「浪花百景」に描かれた桜の名所が連なっていることが実感できた。女性は大川付近でのお花見の帰りなのである。これも一つの発見である。

大阪くらしの今昔館でボランティアをされている酒井裕一氏のブログ「今週の今昔館（169）」の「浪花百景に見る江戸時代の大坂（7）」でも、現在のこの界隈も含めた写真が紹介されており、ステイホームが続いて遠出がしにくいなか、思わずパソコンに見入ってしまった。

筆者プロフィール

橋爪 節也　はしづめ せつや

大阪大学総合学術博物館前館長／大学院文学研究科教授。1958年、大阪市生まれ。東京芸術大学大学院修了。大阪市立近代美術館建設準備室学芸員を18年間つとめ現職。専門は日本美術史。展覧会では「没後200年記念木村兼葭堂―なにわ 知の巨人―」「北野恒富展」「没後80年記念佐伯祐三展」などに携わる。編著に『大大阪イメージ―増殖するマンモス／モダン都市の現像―』（創元社）など。